

# 令和3（2021）年11月市長定例記者会見の概要と質疑応答

令和3（2021）年11月10日（水曜日）  
午前11時～午後0時3分  
柏崎市役所多目的室

## 1 発表事項

### (1) 新型コロナワクチンの2回接種がおおむね終了しました

（主管：健康推進課）

市内でのワクチン接種は、2月半ば過ぎに医療関係者から始め、高齢者や施設に入っている方々と順次進めてきました。何度か途中経過も報告しながら、10月下旬までに希望される方の接種を終えたいという目標を設定しました。しかし、途中思うようにワクチンが供給されず、10月末は間に合わないかもしれないですが、11月の初旬には希望者の2回接種を終わらせたいとお話しさせていただきました。12歳以上の対象者が75,261人いますが、1回目接種が終わった方が90.2パーセント、2回目接種が終わった方が89.0パーセントです。対象者のおおむね90パーセントを占めるに至りました。まだ12歳の誕生日を迎えていない方で接種を希望する方は、順次接種を行っていくつもりです。また、機会を逃したという方も、市内の医療機関などでワクチン接種は継続していますので、不定期となりますが、市ホームページやLINEなどで日程をご確認いただければと思います。3回目接種に関しては、国の方針でもありますが、2回目接種からおおむね8か月以上経過した方に今月下旬から順次接種券を発送し、12月から医療関係者の方、1月から高齢者施設などに入っている方やそこで従事されている方の接種を始める予定です。もちろん、国の方向性がはっきりと定まり、ワクチンが供給されることが前提です。一般の65歳以上の方は、高齢者施設の入所者や従事者の方が終わってからになりますので、2月ごろからになるのではないかと見込んでいます。接種会場は、なるべく近くで接種していただけるように、集団接種会場と共に、診療所やクリニックなどの準備を進めています。確定的なものとなりましたら改めてご連絡させていただきますが、方向性としては1回目接種のときよりも窓口を広くして、住民の皆さまの利便性を考えて接種を進めたいと考えています。もちろん、軽症者などへの薬の認可などがされれば、3回目接種を希望されない方もいらっしゃると思いますので、それらも含めて、国の方向性を確認しながら進めていきたいと思っています。

## (2)「小・中学校における学力向上プロジェクト」をスタートさせます

(主管：学校教育課)

現在、令和4年度の予算要望が各セクションから上がってきているところです。私は人づくり、人材育成のベースになるのは学校教育だということで、学校教育にお金を振り向けてきたつもりです。子どもたちの教育は学力だけではないですが、学校がまさに学び舎であることを考えるならば、学力もやはり大事な要素だということで、教育委員会の要望はかなり受け入れてきました。今回、学校教育に関する要望が上がってきたときに、現状の柏崎の子どもたちの学力はどうなっているのかを確認させてもらってから令和4年度の要望を受けるか受けないかを決めたいということで、一旦教育委員会に返しました。学力テストの結果を確認したところ、基礎・基本の部分はおおむね良好で、特に小学校が良好でした。国が行っている令和3年度全国学力・学習状況調査の結果では、応用力・活用力の面でさらに力を伸ばすことが必要だということが判明しました。はっきり申し上げれば、全国平均、県平均から劣っていたということです。小学校では3ポイントから4ポイント劣っていて、中学校の各教科の平均では、全国平均、県平均から1から1.4ポイント劣っていました。国は、前段で申し上げた基礎・基本を確認する学力テストよりも、全国学力・学習状況調査の方にウェイトを置いているようです。つまり、より一層応用的な学力を重要視してきているということです。国が重要視しているその応用力・活用力の点で、残念ながら柏崎市の小・中学生は少し劣っていることが分かりました。このことは私も、教育委員会や現場の先生方も少しショックでした。以上がこの学力向上プロジェクトを始めるバックグラウンドの一つです。

もう一つは、特別な支援を要する児童生徒の数が増えてきていることです。13年前に比べて小学校は2.5倍、中学校は2.3倍に増えています。特別支援学級に在籍している児童生徒の数も増えていきますし、特別支援学級に在籍せずとも通級の指導教室に通う児童生徒も増えてきています。私としては、教室の中に先生がいらっしゃって、もう1人学習指導を補助するという意味で指導補助員を増やしてきたつもりでした。しかし、実際の学校現場では、通常教室の中でも発達障害と言われるようなお子さんたちが多くなっているため、そのお子さんを専門に対応するような実態があります。つまり、クラス全体の学習指導・学力アップのために指導補助員を増やしてきましたが、実際には違うところで機能していることが分かったということです。人手よりも人材が求められるこれからの時代、その人材を育成するためには基本的な学力を向上させていかなければなりません。目標は、今後3年間で全国平均、県平均を3ポイントから5ポイント上回り、県トップレベルに到達させることです。11月9日に現場の先生方や教育委員会のメンバーを含めた学力向上プロジェクト推進委員会を

結成し、今後の具体的な取り組みの方向を決定しました。本来的な学習支援を一層充実させるため、学習指導補助員と介助員をさらに増員させます。また、今の柏崎市の児童生徒の学力の実態を保護者の皆さんにもお伝えして、教職員と保護者の皆さんの意識の共有をしながら学力向上リーフレットを配布していきます。具体的には、12月に全小・中学校で民間の総合学力調査を実施して、より正確な柏崎の子どもたちの学力、どこが優れてどこが足りないのかを確認しながらプロジェクトを進めていきたいと考えています。

### **(3) 行政手続きのオンラインサービスを拡充しますーマイナンバーカード取得でさらに便利に！**

(主管：企画政策課、元気発信課)

国もマイナンバーカードの利活用に対して、コロナ対策、景気対策、経済対策も含めて考えているようです。私共も来週11月17日から国が運営するマイナポータルのぴったりサービスを使用して、オンラインで新型コロナワクチン接種証明書、いわゆるワクチンパスポートの申請受け付けを開始します。また、同じくぴったりサービスを使ったオンライン手続きを現在の2手続きから26手続きに拡充します。さらに、1月からは主に柏崎へU・Iターンした方を対象とした補助金のオンライン申請を新たに開始します。国は、令和4年度末を期限にぴったりサービスを活用した行政手続きのオンライン化を進めていますが、柏崎市は約1年前倒しでサービスを開始します。市役所に行かなくても24時間いつでも各種手続きが可能になるため、いろいろな部分で利便性が高められるだろうと思っています。主な手続きの例は、児童手当等の現況届、保育施設等の現況届、要介護・要支援更新認定の申請、介護保険負担限度額認定申請などです。U・Iターンの補助金は4手続きあります。具体的な補助制度は資料をご覧ください。今後、2022年度末までにオンライン手続きを順次拡充し、オンライン決済も導入することでさらに利便性を向上させていきたいと思っています。DX（デジタルトランスフォーメーション）の一貫です。資料にワクチンパスポートの申請イメージがありますが、この手順で進んでいただくとワクチンパスポートが取得できるというものです。これは国が出している接種証明書で、外国でも接種証明書として使えます。

### **(4) 全市一斉地場産給食デーに「米山プリンセス」が登場**

(主管：農政課、教育総務課)

米山プリンセスの今年の収量は10トンを超え、過去最高となりました。昨年度は7トンでしたので、非常に順調な伸びです。いろいろなところで、米山プリンセスは高いコシヒカ

りですが日本一おいしいコシヒカリだという非常に高い評価をいただいています。また、おいしいと聞いているが食べたことがないという柏崎市民の皆さんの声にお応えして、まずは地産地消推進計画の中で食の地産地消の日と定めている11月19日を全市一斉地場産給食デーとして、小・中学校の給食に米山プリンセスを提供します。おかずの大豆、サツマイモ、サケ、タマネギなども地場産品です。

#### **(5) 柏崎元気復活！！「GO TO 忘新年会」キャンペーンでお得に飲食！**

(主管：商業観光課)

昨年も考えたものですが、昨年のこの時期は小学校のクラスターなどもあり断念しました。昨年は2カ月間の予定でしたが、今年は11月26日から2月27日までと約1カ月期間を延長しました。また、昨年は10人以上のグループを対象にしていたましたが、今年は4人以上のグループに条件を緩和しました。昨年は一律2,000円だった割引額も、今年は最大40パーセントの割引としました。お店に配分された予算がなくなり次第終了とさせていただきます。これは、お店の規模に基づいてAランク、Bランク、Cランクとランク付けさせていただきます、それに伴いお店に配分する予算の上限額を変えています。お店それぞれで割引率の限度内であれば、40パーセント割引でも20パーセント割引でもお任せするかたちです。商工会議所の皆さまからも、利便性の向上と店の規模に応じた公平性を担保してもらいたいというお話をいただきましたので、このような制度設計にしました。GO TO イートチケットも40パーセントのプレミアムが付いていますが、GO TO 忘新年会との併用はできません。多くの市民の方々からGO TO 忘新年会やGO TO イートの制度を使っていただき、柏崎の飲食店を助けていただきたいと思います。

## 2 質疑応答

### ◎新型コロナワクチンに関する質問

**記者：3回目接種が年内からスタートということだが、2回目を終えての評価などを伺いたい。**

市長：まず何よりも、市民の皆さまのご協力、ご理解が非常にありがたかったです。また、医療関係者はじめ、それぞれの病院や医療機関のご協力が非常にありがたかったです。そのおかげでほぼ予定通り 11 月上旬に希望者の 2 回の接種を終えることができたと私なりの総括をさせていただきます。

**記者：いつ次の波が来るか分からないが、3回目接種に当たっての意気込みのようなものを伺いたい。**

市長：先ほど申し上げたように、国の方向性がしっかりと定まっているとは承知していません。また、民間製薬会社の内服薬なども最終段階にきていると承知していますので、そういったものが例えば年内に手に入るようになれば、わざわざ 3 回目を打たなくてもいいかという気持ちになる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、国としては 2 回目接種から 8 カ月経過した方に関しては、3 回目を接種した方がよりワクチンの効力が続くということで 3 回目接種を進めようとしています。そういったことを含めて、市民の皆さまにはいろいろな選択肢や国の考え方をお伝えする必要があるだろうと考えています。

### ◎学力向上プロジェクトに関する質問

**記者：指導補助員と介助員をさらに増員するということだが、どれぐらい人数を増やすのか。**

市長：市長に就任してから 10 人単位で増やしてきましたので、5 年前と比べるとおそらく数十人は多くなっていると思います。令和 4 年度は、指導補助員と介助員共に 2 人から 3 人ぐらいずつ増やしたいと思っています。ここにきて、指導補助員や介助員の求人をして、なかなかふさわしい方や条件に合った方が見つからないという状況にあります。現状を少しでも

改善するために指導補助員や介助員をお願いしようとしていますので、誰でもいいというものではありません。たくさん増やしたいという気持ちはやまやまですが、財源や質も含めて勘案しながら考えていかなければいけないだろうと思っています。

**記者：令和 3 年度全国学力・学習状況調査の結果、応用力・活用力が全国平均や県平均より劣っていたということだが、ここ数年このような傾向が続いているのか。**

市長：今までは、基礎・基本を中心とした NRT という学力検査が全国的に行われていたようです。しかし、大学入試制度改革との関係の中で、国が小・中学校で行われるテストを、基礎・基本を確認するという内容から応用力・活用力を確認するという内容に変えてきました。それが今年度から始まりましたので、その中で応用力・活用力が少し劣っていたことが分かったということです。

**記者：資料の中で、昨日、今後の具体的方策を決定されたとあるが、どんなことをやるのか。**

市長：昨日の段階では、大きな方向性として、それぞれの先生方が行う授業を応用力・活用力をしっかりと身に付けてもらえるように改善する、ギガスクール構想の中で配布しているタブレットを活用していく、家庭学習の習慣化を市教育委員会全体として意識化するということです。

**記者：12 月の総合学力調査は全学年を対象に行うものなのか。**

市長：中学校 3 年生を除く全学年です。

## ◎ワクチン接種済証に関する質問

**記者：柏崎市のワクチン接種済証のシステムや実施時期を伺いたい。**

市長：柏崎市の接種済証というものは市の国保医療課と健康推進課で発行しています。ぴったりサービスを使った接種証明書は国の制度を使ったものです。柏崎市が出している接種済証

は累計で74件申請がありました。国の接種証明書、いわゆるワクチンパスポートの交付数は、7月からで82件です。接種済証は、皆さんがワクチンを接種した際にシールを貼られた紙と身分証明書をお持ちいただければ発行します。

**記者：市の接種済証はオンラインでは発行していないのか。**

市長：国の接種証明書はオンライン申請できますが、市の接種済証は申し訳ありませんができません。

**◎GO TO 忘新年会に関する質問**

**記者：資料では対象となる店舗は81店（未定）となっているが、これぐらいの数字になるということでしょうか。**

市長：はい。去年は74店舗でした。今年は市の認証店であることが条件ですので、昨年参画いただいた74店舗は自動的に加わります。加えて、昨年以降認証店になったお店や、これから新たに認証店を目指すお店を含めると80店以上になると思います。

**記者：カラオケがある店も認証されるようになるが、そういった店も今回対象になるということか。**

市長：はい。

**記者：全体の予算規模はどれぐらいを見込んでいるのか。**

市長：去年から繰り越している国からの臨時交付金を使わせていただきます。

産業振興部長：総額約6,000万円を目安に考えています。繰り越し分に不足する部分は新たな財源措置をしていきたいという内容です。

**記者：昨年の規模が約1,100万円なので、大幅に増額となるということでしょうか。**

市長：はい。特に飲食店の方々の売上の減が著しいので、少しでもカバーするために頑張らせていただくつもりです。

産業振興部長：補足をします。昨年の繰り越し分は約3,500万でした。これは全てお店に行くものではなく事務費なども含めた金額です。

### **◎原子力防災訓練に関する質問**

**記者：11月13日に船舶を利用した総合防災訓練が行われると思うが、今回の防災訓練を視察するに当たってどの辺りをよく見たいと考えているか。**

市長：前回の船舶を使った防災訓練では、高浜港に椎谷地区の方々から集まっていただき、小さな船に乗っていただきました。そして、沖合に停泊している海上保安庁・海上自衛隊の船舶に乗り移るという訓練をしました。椎谷地区は高齢化率が非常に高いところですので、参加された方々のほとんどが65歳以上でした。お年寄りにとってみれば港から小さな船に乗るのも大変で、大きな船に乗り移るときが怖かったというお話も伺いました。私も港から知事と一緒に沖合の船舶を見ていたのですが、小型船舶が近づいても沖合ではうねりがあって安定せず時間がかかり、さらにお年寄りですので、乗り移るのも非常に困難でした。今年ご参加いただく方々も高齢者が多いと思いますが、今回は海上自衛隊がLCACというホバークラフト型の船舶を用意してくださいましたので、前回とは違う手段で大型船舶に移ることになります。浜でホバークラフトに乗っていただき、そのまま浜の上と海をホバークラフトで行って、沖合で待っている大きな船舶にホバークラフトごと入っていくという設えですので、前回の怖かったという思いを少しは軽減できると思います。いざ原子力災害のときには、高齢者、障がいなどがある方々の避難が非常に大きな課題だと思います。少しでもスムーズで安全な、安心していただけるような避難ができるかどうかを見せてもらいたいと思っています。

**記者：そのホバークラフトには市長も知事も乗られるのか。**



市長：私はホバークラフトに乗りますが、知事は先に大型船舶に行かれています。その後、船からヘリコプターで移動します。

**記者：市長からヘリコプターを使った避難への期待を伺ったが、刈羽村で県が予定していたヘリコプターの訓練が悪天候により２回とも中止になった。果たして避難に使えるのかどうかというところはどのように考えるか。**

市長：今年の１月、鶴川地区のヘリの訓練を見せていただきましたが、私から見ればそよ風程度でも、ホバリングというのは非常に難しいものだなと思いました。しかし、バスを確保できるかどうかということもありますので、気象状況さえ合えば、やはりヘリコプターでの輸送というのは非常に重要なツールだろうと思います。いろいろな選択肢を用意しておくのは重要だと思いますし、今後もヘリコプターを使った避難というのは期待するところが大きいです。

#### ◎衆議院議員総選挙に関する質問

**記者：先月衆院選が終わったが、原発に関する議論はあったのかなかったのか、どういう見解を持っているか。**

市長：私の市長選挙と同じで、当事者は私自身も含めて明確に自分の考え方を述べたと思っていますし、公報などでも書いたつもりですが、皆さんの捉え方が結果的にどうだったのかは承知していません。私は自民党の細田先生を応援させていただきましたが、あらゆるところで私は細田先生が原子力政策に関してお話しされているのを聞いていました。対抗された候補者の方々も明確に再稼働反対とおっしゃっていたように思いますし、真ん中のポジションのように思われる方々も、それぞれ選挙公報には原子力政策がしっかり書かれていましたので、一定程度議論されたのではないかと思います。ただ、私の選挙のときもそうでしたが、原子力発電所の問題だけが市政にも国政にも大事な問題ではないので、バランスの取れた政策論議がされたのではないかと承知しています。

**記者：各候補がある程度スタンスは示されていたという認識か。**

市長：そう思っています。

### ◎原油の高騰に関する質問

**記者：原油が高騰していて、新発田市が助成制度を設けているが、柏崎市の考えを伺いたい。**

市長：今のところ、原油の高騰に対して柏崎市として支援することは考えていません。別の意味で本当に生活に困っている方がいらっしゃれば、灯油のみならず対応しなければならないと思っています。

### ◎市長 2 期目就任からの 1 年間の振り返りに関する質問

**記者：市長 2 期目就任から 1 年経つが、この 1 年を振り返っての成果や所感を伺いたい。**

市長：選挙が大昔のようにも感じますが、新型コロナウイルスに追い立てられた 1 年だったと思います。私のみならず、市の職員がコロナ対応をする中で、集団接種会場などで市民の皆さまと直接触れ合えて、直接ご意見をいただけたことは非常に良かったのではないかと思います。そして、市民の皆さまからいかに市職員、市役所が期待されているか、頼りにされているかが実感できたと思いますので、これは唯一コロナ騒動の中で良かった点ではないかと思っています。

**記者：原発に関して、2 期目に当選して年初めまでは、この 1 年は非常に大事な期間を過ごすことになるが発言されたが、その後 ID の不正利用などの問題が出てきた。改めて市長のこの 1 年を、想定との違いや今後の期待なども含めて振り返っていただきたい。**

市長：昨年の選挙の後、皆さんも想定されなかつただろうと思いますし、私自身も全く想定していなかった方向に進んできていますので、語り尽くせません。今後に関しては、来年は県知事選挙や参議院選挙があります。そこでまた原子力発電所の再稼働の問題は、きっと争点の一つになってくるだろうと思います。しかし、私の選挙に関してみれば、何度も同じことを申し上げて選挙に当選させていただいたり、落選したりして、これで市民の皆さまの民意を確認で

きたと思ったら、またそうではない状況になっています。いつまでこういったことを繰り返さなければいけないのかということや、この影響の大きさは東京電力に非常に大きな問題として考えていただかなければならないと思います。